

2017年度第3四半期決算説明会(2018年2月6日開催)

主な質疑応答の内容(要旨)

※ 説明会開催日(2018年2月6日)時点の情報に基づく内容です

Q. 第2四半期決算時にガスタービンを納入している発電所の稼働率が低いという話もありましたが、その状況に変化はあるのでしょうか？また、第2四半期決算時にGTCCの年度見通しを下方修正しており、アフターサービス(AS)の売上が想定を下回ったという説明もありましたが、第3四半期末時点ではASの状況は改善しているのでしょうか？

A. ガスタービン発電所の稼働率低下により、ASの売上が想定よりも下回っている状況に変化はなく、劇的な改善はありません。一方で新設プラントは、固定費圧縮の効果もあり、収益性は徐々に改善しています。この効果が安定的、継続的なものか検証した上で、2018年度の業績見通しに反映する予定です。なお、現状では、第2四半期決算時に公表した2017年度の営業利益見通しは概ね達成できていると思っています。

Q. 火力事業に関して、競合他社も固定費削減に取り組んでいますが、新設プラントの受注残から発生する仕事量と現状の固定費のバランスを考えた時、従来計画よりもさらに踏み込んだ施策が必要だと考えているのでしょうか？

A. 石炭火力については、今年度に入ってから工事の進捗に伴って生産高が上がり、今後数年間はボイラなどの仕事量はピークを迎えると思込んでいます。ただし、市場動向を勘案すると、その後は構造転換が必要だと思っており、社員の再教育を通じた職種転換等にも取り組んでいきます。次期中期経営計画の策定にあたっては、一定程度の固定費削減を織り込む予定です。

Q. MRJの開発費用に関して、今年度第3四半期までの実績と通期の見通しについて伺いたい。

A. MRJにかかる開発費用は前年同期とほぼ同レベルで推移しています。現在、飛行試験の真っ最中ですが、開発費用計上額は2017年度がピークとなり、2019年度の型式証明取得に向けて徐々に減少していくと予想しています。足許の開発費用は嵩んでいますが、開発自体は順調に進捗しており、現在の開発スケジュールを守っていきます。

以上